

## 介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

事業者名 株式会社ベネッセスタイルケア研修事業の名称 ベネッセ介護職員初任者研修神奈川県通信コース

1 職務の理解 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修の目的について説明する。</li> <li>・介護は病気を治す医療とは異なり、「生活そのものを支援する」分野であり、それを「仕事（サービス）」として携わるとはどのようなことなのかなどについて、テキスト及び講師の経験談などを基に、概説する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者も、既に介護の仕事に就いている者や、家族の介護を経験している者もいるなか、介護サービスにはどのような種類があるか、グループになって討議、情報交換。その内容をふまえて、講師が「介護保険サービス（居宅、施設）」「介護保険外サービス」に整理・概説し、介護サービスにはいろいろあることに気づいてもらう。</li> </ul>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅、施設など、それぞれの仕事内容について、上記の講義をふまえて、テキスト及び講師の経験談などを基に、より具体的に説明するとともに、どのサービスの種類に就くにしても、本研修で学ぶ「知識・技術・理念」がベースになることを認識してもらう。</li> <li>・ケアプランの位置づけからサービス提供までの業務の流れを説明し、チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含む地域の社会資源との連携について学習する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護など具体的な介護サービスとそこで働く介護職員を紹介しているDVD教材を視聴。介護の仕事について、より具体的にイメージをしてもらう。その上で、「生活を支援する」とは、具体的にどのような支援があるのかをグループで討議。その内容をふまえて、講師が整理し総括する。</li> </ul>
合計	6 時間	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	4.5 時間	1.5 時間	3時間	第1回 問題1 問題2 問題3 問題4 問題5 問題6 問題7 問題8	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人として尊重、アドボカシー、エンパワメントの視点、「役割」の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護について、概要をテキストに沿いながら、現場の具体的な事例などを交えて解説する。</li> <li>・介護分野におけるICF、QOL、ノーマライゼーションの考え方の概要を正しく理解できるようにする。</li> <li>・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援について、概要をテキストに沿いながら、現場の具体的な事例などを交えてどのように対応していくべきか解説する。</li> <li>・個人の権利を守る制度として、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について、概要を解説する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護サービスの利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由」についてグループで討議。グループからの発表を受けて、尊厳という概念に対する気づきを促すよう講師が整理し助言する。</li> </ul> <p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のための国連五原則に関する問題</li> <li>・QOLの考え方に関する問題</li> <li>・ノーマライゼーションの考え方に関する問題</li> <li>・バリアフリーとユニバーサルデザインに関する問題</li> <li>・高齢者の虐待の種類に関する問題</li> <li>・高齢者の財産を守る制度に関する問題</li> </ul>

②自立に向けた介護	4.5 時間	0時間	4.5 時間	第1回 問題9 問題10 問題11 問題12 問題13 問題14 問題15	○添削課題出題ポイント ・自立支援に関する問題 ・自己選択・自己決定に関する問題 ・介護予防に関する問題
合計	9時間	1.5 時間	7.5時 間		

3 介護の基本 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	3 時間	3 時間	0 時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここから、より一層、介護そして介護サービスそのものにかかる事柄を学ぶことを伝える。</li> <li>・ここまでの学習を振り返り、改めて「介護とは何か」ということについて、「介護環境の特徴の理解」という点から、訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性をテキストに沿いながら、現場の状況なども交えて説明する。</li> <li>・介護サービスという生活を支援するにあたっての「専門性」について、テキストに沿いながら、重度化防止、遅延化の考え方や自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護が理解できるよう現場での実践例を交えて解説する。</li> <li>・介護サービスの利用者には、ケアマネジャーや医師、看護師、理学療法士など、介護職員以外にも、様々な職種が関わっていることを伝え、主な職種についてと、チームケアの重要性や役割が理解できるようテキストに沿いながら紹介するとともに、現場でどのように連携しているかを説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の講義内容をふまえ、「家族による介護と専門職による介護の違い」について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し総括。専門性を伴った介護サービスの提供とそのため学習の大切さを喚起する。</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 16 問題 17 問題 18	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の職業倫理に関する問題</li> <li>・利用者のプライバシーに関する留意点についての問題</li> <li>・介護福祉士の職業倫理に関する問題</li> </ul>

③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 19 問題 20 問題 21 問題 22 問題 23	○添削課題出題ポイント ・介護職における安全確保に関する問題 ・危険予知訓練に関する問題 ・感染症予防に関する問題
④介護職の安全	1 時間	0 時間	1 時間	第 1 回 問題 24 問題 25 問題 26	○添削課題出題ポイント ・介護職員の安全衛生に関する問題 ・介護職員のこころの健康管理に関する問題
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護保険制度	4 時間	1.5 時間	2.5 時間	第1回 問題 27 問題 28 問題 29 問題 30 問題 31 問題 32 問題 33 問題 34	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景と目的、動向、基本的な仕組み、ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括センターの設置、地域包括ケアシステムの推進など、介護保険制度についてテキストに沿いながらポイントを説明する。</li> <li>・仕組みの基礎的理解として、保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順についてテキストに沿いながらポイントを説明する。</li> <li>・介護保険制度を支える資源、組織・団体の機能と役割について、財政負担、指定介護サービス事業者の指定についてテキストに沿いながらポイントを説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度、各サービスや地域支援の役割についてグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</li> </ul> <p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設に関する問題</li> <li>・介護保険法の概要に関する問題</li> <li>・要支援、要介護認定に関する問題</li> <li>・介護財源に関する問題</li> <li>・介護保険給付に関する問題</li> <li>・介護サービス事業者の指定、更新に関する問題</li> <li>・介護保険給付以外の事業に関する問題</li> <li>・介護保険のしくみに関する問題</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	1.5 時間	0 時間	1.5 時間	第2回 問題 1 問題 2 問題 3 問題 4	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為に関する問題</li> <li>・訪問看護に関する問題</li> <li>・リハビリテーションに関する問題</li> <li>・施設における看護と介護の連携に関する問題</li> </ul>

<p>③障害者自立支援制度およびその他制度</p>	<p>3.5 時間</p>	<p>0時間</p>	<p>3.5 時間</p>	<p>第2回 問題5 問題6 問題7 問題8 問題9 問題10 問題11</p>	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者福祉の理念の概要に関する問題</li> <li>・ 障害者の定義と手帳制度に関する問題</li> <li>・ 障害福祉サービスの種類と内容に関する問題</li> <li>・ 個人情報および個人情報取扱事業者に関する問題</li> <li>・ 成年後見制度に関する問題</li> <li>・ 日常生活自立支援事業に関する問題</li> <li>・ 虐待防止制度に関する問題</li> </ul>
<p style="text-align: right;">合計</p>	<p>9時間</p>	<p>1.5 時間</p>	<p>7.5 時間</p>		

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①介護におけるコミュニケーション	2時間	2時間	0時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割についてテキストに沿いながら説明するとともに、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることを説明する。</li> <li>・コミュニケーション技法、利用者と家族とのコミュニケーション、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションについて学ぶ。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態・状況による対応を理解するため、受講者が2人一組で、それぞれ利用者役と介護者役となり、ロールプレイングによるコミュニケーション技術を体験する。それを受けて、講師が助言し総括。コミュニケーション技術は、現場でも意識して磨いていく必要があることを喚起する。</li> </ul>
②介護におけるチームのコミュニケーション	4時間	1時間	3時間	第2回 問題12 問題13 問題14 問題15 問題16 問題17	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化、報告・連絡・相談・コミュニケーションを促す環境について、テキストに沿いながらポイントを説明する</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告、連絡、相談について事例を基にグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</li> </ul> <p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義、目的、書き方、留意点に関する問題</li> <li>・事故報告書に関する問題</li> <li>・報告、連絡、相談に関する問題</li> <li>・居宅サービスにおけるサービス担当者会議、ケアカンファレンスに関する問題</li> </ul>
合計	6時間	3時間	3時間		



6 老化の理解 (6 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①老化に伴うところとからだの変 化と日常	3 時間	3 時間	0 時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴う防衛反応（反射）の変化と喪失体験を心身の変化の特徴としてテキストに沿いながら説明する。</li> <li>・咀嚼機能の低下、筋・骨・関節・体温維持機能の変化など、身体的・精神的機能の変化とそれに伴う日常生活への影響を学ぶ。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「加齢・老化に伴う心身の変化」について、グループで整理する。グループからの発表を受けて、講師が補足し総括。老化は、私たち（受講者）一人ひとりの心身にもみられる身近なテーマであり知識であることにも気づいてもらい、今後とも理解と関心を高めることを助言する。</li> </ul>
②高齢者と健康	3 時間	0 時間	3 時間	第 2 回 問題 18 問題 19 問題 20 問題 21 問題 22 問題 23 問題 24 問題 25	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康に関する問題</li> <li>・高齢者の意識障害に関する問題</li> <li>・老化に伴う疾患に関する問題</li> <li>・廃用症候群が引き起こす症状に関する問題</li> <li>・高血圧症に関する問題</li> <li>・老人性高血圧に関する問題</li> <li>・老化に伴う脳血管疾患に関する問題</li> </ul>
合計	6 時間	3 時間	3 時間		

7 認知症の理解(6時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①認知症を取り巻く状況	3時間	3時間	0時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化の理解では、介護の原因となる「体」の病気・障害を多く学んだが、ここでは「心」の病気・障害として、現場で多くの利用者が患っている「認知症」について学ぶことを伝える。</li> <li>・認知症ケアの視点、具体的にはパーソンセンタードケアについて、テキストに沿いながら説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の講義をふまえ、DVD教材を活用して、実際の認知症の利用者を紹介するとともに、どのような対応が望ましいか、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</li> </ul>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1時間	0時間	1時間	第2回 問題26 問題27 問題28 問題29 問題30 問題31	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に似た症状に関する問題</li> <li>・改訂長谷川式簡易知能評価スケールに関する問題</li> <li>・認知症の原因となる主な疾患に関する問題</li> <li>・アルツハイマー型認知症と脳血管認知症の比較に関する問題</li> <li>・認知症の原因疾患に関する問題</li> <li>・認知症に関する問題</li> </ul>
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1時間	0時間	1時間	第2回 問題32 問題33 問題34 問題35	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺症状に関する問題</li> <li>・基本的なケアに関する問題</li> <li>・認知症の人のケアマネジメントセンター方式に関する問題</li> <li>・認知症の人に関わる介護職員に関する問題</li> </ul>
④家族への支援	1時間	0時間	1時間	第2回 問題36 問題37 問題38	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への支援に関する問題</li> <li>・家族介護者へのエンパワーメントに関する問題</li> </ul>
合計	6時間	3時間	3時間		

8 障害の理解 (3 時間)					
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課 題番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①障害の基礎的理解	1 時間	0 時間	1 時間	第 3 回 問題 1 問題 2 問題 3	○添削課題出題ポイント ・ ICF の考え方に関する問題 ・ 障害の概念に関する問題 ・ 障害者基本法に関する問題
②障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支援 等の基礎的知識	0.5 時間	0 時間	0.5 時 間	第 3 回 問題 4 問題 5 問題 6 問題 7 問題 8	○添削課題出題ポイント ・ 肢体不自由障害に関する問題 ・ 音声, 言語, 咀嚼機能障害に関する問題 ・ 内部障害に関する問題 ・ 精神障害に関する問題 ・ 知的障害に関する問題
③家族の心理、かかわり支援の理 解	1.5 時間	1.5 時間	0 時間		○講義 ・ 障害の受容の過程を通し、家族への支援 とその方法についてテキストに沿って伝 える。 ○演習 ・ 家族を支える仕組みについて、何がある か、何ができるかをグループで討議。グ ループからの発表を受けて、講師が整理 し助言、総括する。
合計	3 時間	1.5 時間	1.5 時間		

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）						
	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	添削課題 番号	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
基本知識の学習	① 介護の基本的な考え方	4.5 時間	4.5 時間	0 時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「理論と法的根拠に基づく介護」というタイトルのもと、初日からここまで学んできた、本来行われるべき ICF の視点・理論と法的根拠に基づいた介護について、改めて確認する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の講義、及び初日からの講義をふまえ、適切なサービス提供のために必要な視点や理論や根拠にはどのようなものが考えられるか、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</li> </ul>
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	0 時間	3 時間	第 3 回 問題 9 問題 10 問題 11 問題 12 問題 13	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶の基礎知識に関する問題</li> <li>・感情の基礎知識に関する問題</li> <li>・マズローの欲求階層説に関する問題</li> <li>・障害への心理的反応に関する問題</li> <li>・障害受容に関する問題</li> </ul>
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	0 時間	3 時間	第 3 回 問題 14 問題 15 問題 16 問題 17 問題 18 問題 19 問題 20 問題 21	<p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造に関する問題</li> <li>・人体の機能に関する問題</li> <li>・バイタルサインに関する問題</li> <li>・骨、関節、筋の基礎知識に関する問題</li> <li>・中枢神経系に関する問題</li> <li>・末梢神経系に関する問題</li> <li>・自律神経の機能に関する問題</li> <li>・老化と加齢に関する問題</li> </ul>
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3.5 時間	1.5 時間	2 時間	第 4 回 問題 1 問題 2 問題 3 問題 4 問題 5 問題 6	<p>○講義</p> <p>家事サービスのあり方について説明する。</p> <p>買い物、調理（食事）、選択、衛生管理、清掃などの項目において個別性、生活歴、生活習慣を十分理解したうえで、必要な家事援助を行うことの必要性をテキストと実例を含め説明する。</p> <p>○演習</p> <p>利用者の日常生活の維持・向上を目指し、生活背景の異なる利用者に対して、援助のポイントをグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p> <p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事と生活の理解に関する問題</li> <li>・家事援助と生活支援に関する問題</li> <li>・家事援助の留意点に関する問題</li> <li>・栄養の理解に関する問題</li> <li>・衣服の役割に関する問題</li> <li>・住居の管理方法に関する問題</li> </ul>

⑤快適な居住環境整備と介護	3.5時間	1.5時間	2時間	第4回 問題7 問題8 問題9	<p>○講義 快適な居住環境整備について安全で快適な環境の基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用、住居内における事故防止（安全対策）についてテキストと事例を含め説明する。</p> <p>○演習 利用者にとって快適な住環境、住居内で起こりうる事故についてグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。</p> <p>○添削課題出題ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居室環境づくりに関する問題</li> <li>・介護職員が住環境整備で心がけることに関する問題</li> <li>・福祉用具(機器)に関する問題</li> </ul>
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここから先は、ADL（日常生活動作）すなわち生活場面ごとの「生活支援技術（自立度に応じた身体の介護技術）」を練習し、身につけていくこと視野に入れた演習を含むことを伝える。</li> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択と着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果について学ぶ。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた衣服の着脱方法を考え、その実技を演習する。（座位、ベッド上）講師は都度、助言・指導する。</li> </ul>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	13時間	13時間	0時間		<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「移動・移乗」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・さまざまな移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。</li> <li>・ボディメカニクスの基本原則、重心、重力の働きを理解し、利用者と介護者双方が安全で安楽な移動・移乗の方法について学ぶ。</li> <li>・「移動と社会参加の留意点と支援」というタイトルのもと、移動や外出とその自立の大切さなどを、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすや杖を用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた移動・移乗方法の方法を考え、その実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。</li> <li>・具体的には、ベッド上での体位変換（水平移動・寝返り・側臥位から端座位）、ベッド・車いす間の移乗、車いす移動、視覚障害者の歩行介助、肢体不自由者の杖歩行介助をロールプレイング形式で行う。</li> </ul>

<p>⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食事」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・「食事環境の整備」「食事に関連した福祉用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ」などのタイトルのもと、食事にかかる様々な事柄について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて解説する。</li> <li>・「楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」「食事と社会参加の留意点と支援」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> <li>・口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防について、テキストに沿いながら現場の実践例も交えて説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、持参したお弁当を用い、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた食事方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。</li> <li>・具体的には、肢体不自由者・視覚障害者への座位での食事、口腔ケアをロールプレイング形式で行う。</li> </ul>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入浴、清潔保持」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。</li> <li>・さまざまな入浴・清潔保持のための方法について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> <li>・「楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易浴槽やお湯やタオルを用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。</li> <li>・具体的には、浴室での洗体・洗髪介助、浴槽の出入りの介助、清拭、座位での足浴、爪切りをロールプレイング形式で行う。</li> </ul>

<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6.5時間</p>	<p>6.5時間</p>	<p>0時間</p>	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「排泄」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法について、テキストに沿い、実物を用いながら解説する。</li> <li>・「爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、生理的・心理的・社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段であること、おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、便秘の予防について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータブルトイレやおむつを用い、受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、提示した事例（利用者）について、利用者の自立に向けた排泄方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。</li> <li>・具体的には、ベッド上での紙おむつ交換の介助、ベッドからベッド横ポータブルトイレでの排泄介助をロールプレイング形式で行う。</li> </ul>
<p>⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>3時間</p>	<p>0時間</p>	<p>○講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「睡眠」に関する知識を、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法について、テキストに沿いながら説明する。</li> <li>・「快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法」というタイトルのもと、安眠のための介護の工夫、安楽な姿勢・褥瘡について、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。</li> </ul> <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が、利用者役と介護者役で2人一組となり、ベッドを用いて、提示した事例（利用者）について、ベッドメイキングや体位変換など利用者の自立に向けた睡眠方法を考え、実技を演習する。講師は都度、助言・指導する。</li> </ul>

	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	5 時間	3 時間	2 時間	第 4 回 問題 10 問題 11 問題 12 問題 13	○講義 ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみについて、テキストに沿いながら、現場の実践例も交えて説明する。 ・生から死への過程、死に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援が理解できるようになる。 ○演習 ・尊厳ある死についてグループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。 ○添削課題出題ポイント ・死へのプロセスと介護に関する問題 ・在宅ターミナルケアに関する問題 ・死にゆく人のところの過程に関する問題 ・看取りにおける家族支援に関する問題
生活 支援 技術 演習	⑬介護過程の基礎的理解	2 時間	○講義 ・介護過程の目的・意義・展開について、テキストに沿いながら解説する。 ・介護過程とチームアプローチについて、テキストに沿いながら、現場の事例なども交えて説明する。 ○演習 ・個別援助計画書の作成を行う。			
	⑭総合生活支援技術演習	10 時間	○講義 ・事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→課題の発見という流れをグループごとに行う。 ○演習 ・事例は高齢（認知症・片麻痺）の 2 事例			
実習		0 時間				
合計		75 時間				
10 振り返り（4 時間）						
項目名		時間数	講義内容及び演習の実施方法			
①振り返り		2 時間	○講義 ・研修を通して学んだこと、継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点をおさらいする。 ○演習 ・介護職として重要な視点・姿勢についての要点を、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し、総括する			
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修		2 時間	○講義 ・「介護職員として就業後も継続して学ぶべきこと」などのタイトルのもと、介護サービスに従事してからのあるべき姿について、伝達する。 ○演習 ・次のステップへ高めるため継続して学習・研鑽する課題について、グループで討議。グループからの発表を受けて、講師が整理し助言、総括する。			
合計		4 時間				
全カリキュラム合計時間		130 時間				

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること